

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

同調圧力という言葉があります。これは、「①皆と同じ」であることを強要(*1)する、a無言の圧力が集団内にbハタラいていることをいいます。仲のいい友達なのだから、同じものを持って、同じことをして、同じような経験を重ねていく。だって、私たち友達だもの——その言葉に凝縮(*2)されているように、「皆の中の一人」であることがすべてだと思い込んでしまう。[A]、皆といっしょにいるときの自分が「本当の自分」だと思うようになる、そんな友達関係が見られます。②でもこれって、本当の友達関係なのでしょうか。

「友達と同じ」にしていることで、自分の居場所があると感じられるのは、心地よく、また安心感も得られます。皆とちがうことをしたり、異なる意見を言ったりするのは、とても勇気が必要だと思います。皆がそれでいいと思っている(ように見える)ことに、あえて反論するのは、その場に波風を立てる(*3)ことになってしまう。それがこわくて、自分も皆と同じ意見、というような顔をしているけれど、本当は疑問を感じていたり、やりたくないと思ったりしている友達もいるかもしれない。[B] そういう子の存在は、見えてこないので、反論しなくなったときに不安を感じるでしょう。

「③多様性を認めよう」という掛け声をよく聞きますが、「認める」とは「cヒテイはしない」ということとは違うはず。相手の言動を単にヒテイしないというだけではなく、互いに対等な存在として互いの価値を認め合い、そこから、どのような関係性を生み出していくのか、というところまで考えられているのでしょうか。友達関係でも同じことです。あなたは、ほかの誰とも違うかけがえのない存在。そして、誰にも支配されることはないし、誰も支配できない、[X] な関係のはずです。④しかし、実際の友達関係は、どうなっているのでしょうか。

二〇二二年に公開された映画『さかなのこ』は、小さいころからとにかく魚が好きで、魚のことなら何でも知っていて素晴らしく上手な魚の絵を描くことができるけど、周囲の人と足並みをそろえたり地道に勉強したり、ということが苦手な「ミー坊」が主人公です。ちょっとd常識からずれているところが原因で、ミー坊は学校の中でいつもぐわもて強面の総長(つまり、ヤンキーのリーダー)たちから目をつけられたりもするのですが、ヤンキーたちも次第に、ミー坊のひたむきさに巻き込まれていきます。そして時はめぐり、大人になったかつてのヤンキーたちは偶然にもミー坊と再会し、ミー坊の良さをもっと多くの人に知ってもらおうと応援し、チャンスをつくるようになるのです。「変わっている子」としてその個性を認めているだけなら、誰にでもできるかもしれない。深く立ち入ることなく自分に関係のない人だと考えれば、別に相手が何をしていてもどうでもいいと思えるなら、それは、本当にその人のことを認めていることにすらならないと思います。だって、「自分とは関係ない」からこそ、違っていても変だと感じても、「どうでもいい」と思っていられるわけですから。つまり、「みんな違ってみんないい」と言っている、ただそれだけでは本当の意味での多様性の尊重(*4)にはならないと思います。個性的な子としっかり向き合って、その子の良さを認めて、その子とかかわりながら一緒に新しいものを生み出していこうとするとともに、対等な関係性が生まれるのではないのでしょうか。

(堀内かおる『10代のうちに考えておきたいジェンダーの話』)

*1強要……無理に求めること

*2凝縮……そこに集まっていること

*3波風を立てる……もめごとが起こる

*4尊重……価値のあるものとして大切にすること

問1 線部a～dに関して、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しましょう。

問2 A、Bに入る言葉をそれぞれ次の中から一つ選んで、記号で答えましょう。(同じ記号は一度しか使えません。)

ア、ところで イ、だって ウ、そして エ、なぜなら オ、でも

問3 Xに入る言葉を、Xよりも前の部分から2文字で抜き出して答えましょう。

問4 線部①「皆と同じ」ように過ごす人の気持ちを説明した次の文を完成させるように、【 1 】と【 2 】に気持ちを表す言葉を入れましょう。本文の中の言葉をできるだけ使うようにしましょう。

皆と同じ過ごし方をして、自分がそこに居ていいと認められることは【 1 】(10字以上15字以内)が、皆と違う過ごし方をしたり、違う意見を言ってトラブルを起こしたりしてしまうのは【 2 】(5字以内)と思う人もいる。

問5 線部③「多様性を認めよう」とありますが、映画『さかなのこ』の中では、多様性を認める行動として誰のどのような行動がありますか。「ヤンキーたち」と「ミー坊」という言葉を使って説明しましょう。